

「臼歯部人工歯配列と削合」

河村 昇

人工歯排列のみでフルバランスドオクルージョンを目指し、排列を行うが実際はワックスの収縮や、重合収縮により咬合器上での削合が必要となる。

今回、歯科技工研修科の研修生が実際に実習で製作した作品について解説し、排列の実際と削合の勘所について説明する。

「知識で変わる歯のかたち」

伊原啓祐

数多くの天然歯を観察し、その歯牙の持つ特徴と規則性を理解する事がカービング上達の近道であると考えている。今回のカービング作品を講評し、天然歯を理解していただく手助けになれば幸いです。

「総義歯製作 ～模型の観察と分析の重要性～」

水野邦浩

日常臨床において歯科技工士が預かる模型には、印象採得を行った歯科医師の総義歯製作に対する概念や術式、または手技・手法により様々な表面性状や形態が再現されている。発表では、口腔内で起きていると思われる歯槽骨の吸収や顎堤粘膜の状態を、概形印象・作業模型から観察・分析し、その情報を口腔内に装着される技工物に反映させるには、どのようなアプローチが必要になるかを堤式規格模型の紹介と共に解説をすすめる。

「石膏カービングを臨床で活かすために」

三好 大介

歯の解剖学で学んだ、個々の歯の形に通ずる法則性、各歯種の形態の概要、上下顎の形態差、同一の歯の近遠差などを理解した上でより理解を深め具現化できる技術を身につけるために歯型彫刻(カービング)を行った。

実際の臨床において、そのトレーニングだけでは難しいと感じるところがあったが、歯科治療の目的における、Longevity, Inflammation control, Force control, Esthetics に当てはめることで明確になった。

日常臨床での製作ステップにおける意味と目的を中心に咬合面形態の製作の解説をしたいと思います。